

東京マラソン2026

【出場結果】

実施日： 3月1日(日)

コース： 東京都庁～飯田橋～神田～日本橋～浅草雷門～両国～門前仲町～銀座～高輪～日比谷～東京駅前・行幸通り(日本陸連・IAAF/AIMS 公認コース)

出場者： 加藤 平 親崎 達朗

リザルト：

氏名	加藤	親崎
タイム	2:14'53"	2:19'23"
順位	64位/38,773名	101位/38,773名

【レポート】

東京マラソンは、世界最高峰のアボット・ワールドマラソンメジャーズに属する国内最高グレード「G1」の大会です。

エリートの部では、MGC(マラソングランドチャンピオンシップ)シリーズの最終戦としても位置づけられ、招待選手やトップアスリートが集う世界レベルのマラソン大会となりますが、今年度のエリート枠は資格記録が2時間16分切で足切りとなっており、非常に狭き門の中、当社からは加藤、親崎の2名がエリート選手として出場しました。

加藤、親崎ともに昨年度の大会も出場基準を満たしていましたが、怪我や故障に苦しみ、エントリーを見送ることとなり、今年度のレースに標準を合わせてコンディションを整えてきました。



序盤は冷静にレースを進める加藤

気象コンディションはスタート時の気温が 16℃まで上がり、マラソンを走るには暑さを感じる中、序盤から向かい風を受ける難しいコンディションとなりました。

加藤はペースメーカーが先導する 1 km3 分を切るペースにはつかず、1 km3 分少々を刻むラップを刻み、親崎は女子の海外招待選手をペースメーカーする集団につき、1km3 分 10~15 秒のペースでレースを進めました。



序盤から暑さと風を感じる中、正確なラップを刻む親崎

15 kmまで単独でレースを進めていた加藤は、後方から追いついてきた集団に吸収されましたが、ここでラップが 1 km3 分 15 秒程に落ち込んだものの、冷静な表情で集団のペースでレースを進めます。

親崎は 25km 地点まで 1km3 分 10~15 秒を刻む集団でレースを進め、正確なラップを刻みましたが、25 km以降は少しずつ集団から離れだし単独走でレースを進めます。



30 km過ぎにペースアップする加藤

加藤は、吸収された集団でレースを進めていましたが、30 km手前で集団のペースが1 km3分20秒まで落ち込んだところで、1人飛び出して再び3分15秒程のペースに戻してゴールに向かいます。

最後の向かい風に苦しむ場面もありましたが、落ち込みを最小限に留めて2時間14分53秒でのゴールとなりました。

25 km過ぎから単独走となった親崎も、後半の落ち込みが心配されましたが、1 km3分20秒台をキープする粘りの走りを見せて、2時間20分を切る2時間19分23秒でのゴールとなりました。



ラスト 200m でスパートをかける加藤



2 時間 20 分切りを目指して、ひた走る親崎



【総 評】

加藤と親崎は、共に昨年度の東京マラソンは故障と怪我で欠場しており、悔しさの残る一年となりましたが、今年度に入り、今回の東京マラソンを目標として、じっくりと走り込みを行ってきました。

加藤はレース目標をサブ 10、親崎は 2 時間 15 分切りを掲げてレースに臨み、結果としては目標に届きませんでした。2 年振りのマラソンで最後まで記録を狙って諦めない走りが出来たことは、次戦を見据える上でも非常に価値のあるレースであったと感じます。

次回挑戦するマラソンでも、高い志を持ってレースに臨み、「過去の自分越え」に挑んで欲しいと思います。

引き続きまして、皆さまの温かいご声援を宜しくお願い致します。

以 上

画像提供：新電元工業 坂本千夏様
Eldoreso 阿久澤様